



東京大学アタカマ天文台 (TAO) 観測的赤外線天文学におけるデータ生成と活用

小西 真広 (天文学教育研究センター) <konishi@ioa.s.u-tokyo.ac.jp>

土居 守, 宮田 隆志, 河野 孝太郎, 田中 培生, 本原 顕太郎, 峰崎 岳夫, 田辺 俊彦, 酒向 重行, 諸隈 智貴, 廿日出 文洋, 高橋 英則, 上塚 貴史, 加藤 夏子 (天文学教育研究センター), 青木 勉 (木曾観測所), 吉井 讓 (天文学教育研究センター/Steward Observatory, Univ. of Arizona)

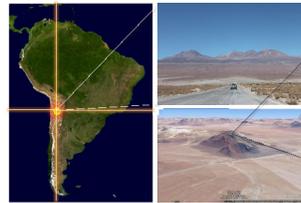


The University of Tokyo Atacama Observatory (TAO): 東京大学アタカマ天文台

概要 東京大学アタカマ天文台 (TAO) 計画は、理学系研究科附属天文学教育研究センターが中心となって進めている**主鏡口径6.5mの大型赤外線望遠鏡**を建設する天文台計画(代表: 吉井讓)である。

建設地 赤外線波長域で抜群の大気透明度を誇る**チリ共和国**北部**アタカマ**砂漠に位置するチャナントール山(標高**5,640m**、南緯22度59分、西経67度45分)。

目的意義 「惑星の起源」「銀河の起源」「宇宙の起源」の解明を目指すとともに、大学運営望遠鏡として、次世代を担う大学院生**教育**、若手研究者**育成**を重視。



miniTAO 1m望遠鏡 (2009年設置)



世界最高標高の天文台としてギネスブックに登録。

